

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 28 号

平成 6 年 10 月 14 日発行

編集者 大野 良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬
谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

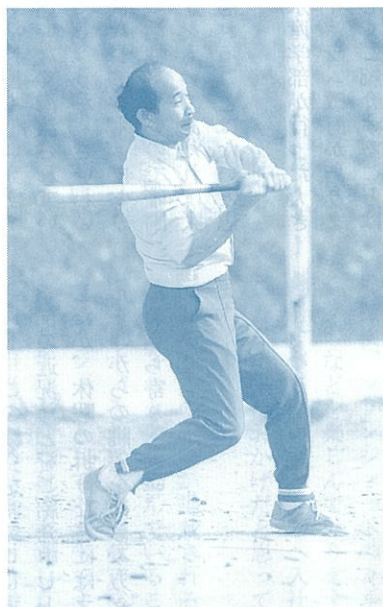
「水産学部長就任にあたって」（水産学部長 神谷 久男）
職場紹介 ヤマハリゾートはいむるぶしにて （13A・遠藤 岳朗）
「関東地区親睦会に参加して」（9A・小原 初恵）
「第21回体育祭開催」（体育祭実行委員長 水産学部3年 寺田重行）
「全日本大学釣り選手権大会に優勝して」（水産学部4年北釣会 羽根田 努）
「平成6年度三水会総会開催」

Information

※ “1 期生卒業20周年記念三陸ツアー”のご案内



関東地区親睦会（千葉県富津市）



体育祭で活躍の井田教授



「水産学部長就任にあたって」

水産学部長 神谷 久男

本年七月より、平野禮次郎先生のあとをうけて学部長に就任しました。大学にとっては困難な時代の始まりにあたる今日、その責任の重大さを痛切に感じております。

三陸という地にある水産学部がわが国における水産学の教育・研究の我として確固たる地位を築き上げるに至りましたのも、教職員の弛まぬ努力とともに、それに応えた学生諸君の熱意に依るところも大きいと思います。今日、水産学部における研究活動は国内外で高く評価されております。この四月にも水産食品化学講座菅野信弘講師の海藻の硫酸代謝に関する研究業績に対して日本水産学会賞奨励賞が授与されました。本学部で四人目の受賞者となります。こうした活発な研究活動に裏打ちされた教育は本学部の特色になりました。教育活動の場はマリナーホールを

中心に行われておりますが、同ホールはまた、憩いの場としてキャンパスの中心的存在となりつつあります。このようにキャンパスとしての体裁も整い、学部はいよいよ播種期から成長期に移ろうとしております。

ところで、今年三月、二〇年の永きにわたって水産増殖学講座を担当された橋高二郎名誉教授が、六月には基礎生産学講座の設立と発展に尽くされた平野禮次郎教授が定年を迎えられました。学園の定めるところとはいえ、学部にも多大の貢献をされた先生方をお送りするのは大変寂しいことです。先生方のご健康をお祈りしますとともに今後とも指導を戴きたいと思えます。両先生をお送り申し上げた一方で、優れた業績と研究意欲に燃えた優秀な先生方を学部のスタッフとして迎えることができました。学部の将来にとってまことに頼もしい限りであります。さて、今日、大学をめぐる情勢は

大きく変わろうとしております。ご

存じのように一八歳人口が減少し、大学が学生を選抜していた時代から学生が大学を選抜する時代へと変わろうと云われています。大学はその対応に追われている状況といったところです。徒に社会の動向におもねる必要はありませんが、あらゆる面から大学はその真価を問われているのだということを肝に銘じておきたいと思えます。教育、研究の目標がはっきりしない活性度も低い大学、学部は今後間違いなく淘汰されていくのではないのでしょうか。さいわい水産学部は明快な目的をもっておりますし、研究の活性も高いので確固たる意志と信念をもってあたれば大雪冬の時代も恐れることはないと思えます。

さて、最近水産学部が行った大きな事業にカリキュラム改訂がありま

産を考える上で基礎となる教科を学科の別なく必修としたこと、学科の選択を三年修了時としたこと、卒業に必要な習得単位を減らし、選択科目を大幅に増やして自由度の高いカリキュラムとしたことです。これらの改訂が勉学意志の向上に繋がることを期待しております。

水産学部卒業生諸君の心根と三陸での生活で磨かれた協調性、適応性は企業で高く評価されております。今年の就職戦線は学生諸君にとって楽観を許さぬ状況にありますが、三水会会員の活躍がこうした後輩諸君の置かれた状況を改善するに大いに助けになっていることはいうまでもありません。今後ますますのご活躍を願って止みません。

以上、この機会をおかりしまして学部の近況などをご紹介申し上げましたが、休暇の折りなどにはマリナーホールからの眺望を楽しみ方々三陸にお立ち寄り下さい。

ヤマハリゾートはいむるぶしにて

13 A 遠藤 岳朗

それは、無からの出発でした。

卒業して私は伊豆の水族館にイルカの調教師として入社することが出来ました。来る日も来る日もショーの連続で現実と自分の夢のギャップに打ちのめされ、南の島で働きたいという衝動にかられ、そこでめぐりあったのがはいむるぶしでした。しかし当時私は、船の免許はおろか、ダイビングの免許もない状態でした。そこでまっていた私の仕事は港からリゾートへお客様を送迎するバスの運転手という仕事でした。いきなり大きなバスを持たされ、ガードレールやみぞに車をぶついたり、落したりと日々寿命が縮まる思いの日々を送ったのがつい昨日の様に思い出されます。三ヶ月間送迎係をしたのち、私の希望するマリニンストラクターの部署への異動が決まり、意気揚々と仕事を初めましたが、そこで待ちかまえていたのは、マリンスポーツに関してほとんど無資格、無

知ということでした。しかし私は自分より年下のアルバイトにばかりにされながらも、資格とマリンスポーツの知識の取得に努め、数々の資格やマリンスポーツを自分のものにして行きました。今では、ダイビングのライセンス、船舶免許（一級）、潜水士、海難救助員の資格、などを取得失日々仕事にはげんでおります。

ここで私の働いているはいむるぶしを御紹介します。場所は南西諸島に位置し、西は西表島、東は石垣島にはさまれた、周囲わずか14kmの小さなサトウキビ畑の島の中にあります。ヤマハリゾートが経営しております全国10ヶ所ほどあるヤマハリゾートのひとつでもあります。客室138ルームという小さな規模ですが、客室はビジネスホテルの3倍はあろうかという広さとヤマハの家具でそろえたインテリアは、日本の最南端でしかもこんなちっぽけな島の中にこんな設備がとアツと言わせるものが

あり、来園されたお客様は一樣にびつくりされて帰られます。

また、マリンプレイに関しては数十に及ぶ遊びを日変わりでチョイスすることが出来、あきることがない程ですし、食事も数十種類のコース料理やアラカルト料理に舌つづみをうつことが出来、南国のすばらしいロケーションの中に、身を投げざりゾート気分にとっぴりと漬け込まれ、社会復帰が困難になるというデメリットが生じる程です。

そこで私はウインドサーフィン、マリッジット、水上スキー、ヨット、スノーケリングのスポーツを通じて、お客様にインストラクターという立場で案内しております。

また休日には、はいむるぶしの各スポーツや各施設を無料で体験したり、利用したり出来るために、夏には一ヶ月に3回脱皮するほど日に焼け遊びに明けくれていますし、各離島へと足をのびし、西表島縦断やマ

ングローブの川のカヌー登りや洞くつ探検、マリッジットのクルージング、などを楽しんでおります。これもすべてはいむるぶしへ入社することが出来たおかげだと思っております。

しかしこの記事が掲載される頃、私は第3の人生を歩んでいることとします。それは、俳優渡辺裕之のマネージャーとしての人生です。彼とは5年ほど前取材で来園したおりに取材担当のものがきっかけでプライベートなおつき合いの仲で生まれた信頼の末のお話でした。人間どこでどう人生が変わるかわかりませんが、努力は必ず実るという事を、私は、はいむるぶしを通じて、学んだ様な気がします。今後は渡辺裕之と人生を歩んで行くわけですが、公私共々応援を御願いたします。

尚8月18日よりサンシャイン劇場にて、スタンドバイミーを上演いたしますので機会がありましたら足を御運び下さい。

全日本学生釣り選手権大会に優勝して（北釣会）

水産学部4年 羽根田 努

私は昨年の10月に和歌山で開催された、第7回全日本大学釣り選手権大会、ルアー、フライ部門において優勝することができました。

10月14日、大会前日に、北釣会部員4人で和歌山に向かって出発しました。三陸から和歌山までは、想像以上に遠く、電車で5時間、バスで10時間、和歌山に到着したのは、朝



の8時頃でした。しかし、休む間もなく、開会式などの行事が行われ、前夜祭終了後、それぞれ種目別の宿舎に向かいました。私は、ルアー、フライ部門に参加したわけですが、会場となった合川ダムまでは、メイン会場からなんと、バスで3時間半もかかりました。

その夜、宿舎で同室の他大学の人から情報を聞くと、今は、赤潮が発生していて、全くと言っていい程、バスは釣れていないということでした。私は、これを聞いてショックをうけました。なぜなら、10月といえば、ベストシーズンで、よく釣れるというイメージを持っていたからです。そして、釣れなかったらどうしようという不安で、その日はあまり眠ることができませんでした。

一夜あけて次の日の朝、なんと、大雨。この雨を見た時、これはいけないかもしれないと思いました。なぜなら、雨がバスの喰い気を上げるか



らです。

ここで、ルアー、フライ部門のルールを説明すると、3ラウンドあり、各ラウンド毎、25cm以上のブラックバス3尾の総重量で争われます。

第一ラウンドは、期待と不安の中スタートしました。実際に、スタートしてみると、昨日の不安はウソのように吹き飛びました。なぜなら、スタートして間もなく、他の選手がいきなりバスを釣り上げていたからです。私は、これで気合いを入れ直し、このラウンドで2尾釣ることができました。この時点では、順位は無視して楽しもうという感じで、次のラウンドはがんばろう、ぐらいの気持ちでした。そんなことを考えているうちに、第二ラウンドがスタートしました。私は、第二ラウンドにもなると、魚が釣れにくくなっていると思い、人のあまり入っていないそ

うな所を攻め、この日の最大魚を含め、ビッグフィッシュを2尾釣り上げることに成功しました。

この時点で、私は、トップに立ちましたが、2位との差はわずか400gしかありませんでした。さらに、次の日の第三ラウンドは、他のラウンドにくらべ極端に時間が短かったのです。また、私の釣りは一発大物狙いで数は望めない、2位の人の釣りは、確実に数をそろえる釣り、これらのことから、私のプレッシャーは最大になりました。しかし、翌日は、自分を信じて、自分の釣りをやり通せば悔いはないと思い、開き直って釣りをすることができました。その結果、私が数をそろえることに成功し優勝することができたと思います。最後に、北釣会の近況を申しあげますと、部員数は年々減少していますが、今年も、少ないながら新入部員を迎えることができました。また、近年めずらしく女子の部員も入りました。今年も大学釣り選手権に参加する予定です。私は、今年はお出ませんが、がんばってほしいと思います。また、北釣会のみなさんや、今回、このような機会を与えてくださった関係者の方々に、お礼を申しあげたいと思います。

「関東地区親睦会に参加して」

9 A 小原 初恵

八月六日 千葉県富津海岸にて、約130名の参加者と病理学教室小林教授を迎え、関東地区親睦会が開かれました。

毎年この会を、楽しみにしている私の家族は、早朝5時起きを苦ともせず、仕事の都合で参加できないババを尻目に、ルンルン気分車で、



走らせませす。

当日、現地集合朝8時という早い時間にもかかわらず、遅刻すること無くあつまられるのには驚きです。簀立て遊びに人気があり、親睦会のプラチナペーパーなのだと感じました。

参加者は、3隻の船に分乗して沖合の簀立てへ移動。到着後簀立ての入り口で網を受け取り、いざ中へ！簀立ての中は、幾つかのブロックに仕切られ、数家族づつが入り、中の魚を網ですくい取っていきます。

アジ・ボラ・メゴチ・カレイ・サメ・アナゴ等々を、大人は童心に帰り、子供は、無邪気に、楽しいひとときを味わいました。

別の一画では、恒例になった懸賞付ハマグリ捜しが行われ、大人も子供も足感を頼りに、ハマグリ捜しに熱中しました。

簀立てですくい取った魚は、船上で板前さんの見事な包丁裁きでアラ

イに煮付けに変わり、私たちの舌を楽しませてくれました。

船の上での食事、波の動きと少々アルコール、三陸という同じ学びやで過ごした仲間との楽しいひととき旧交を深めました。

子供たちは、子供たちで誰かれなく親しみあい、海水浴に、船上からのジャンプを楽しみ、小林教授はその様子を好々爺まる出しでご覧になっていました。

教室でのそんなやさしい顔の教授は、見たことがないなと、学生時代を思い出しました。

沖より戻り、潮を温泉で流した後楽しい思いを胸に、また、ハマグリ拾いの賞品を胸に、それぞれが、家路へ。

「第二一回体育祭開催」

体育祭実行委員長 水産学部3年 寺田 重行

五月二一、二二日の二日間にわたり、三陸キャンパスにおいて第二一回体育祭が開催されました。

エントリーが少なかった騎馬戦と綱引きは中止を余儀なくされました

つたない文章で先輩諸氏のお目を汚しましたが、家族共々楽しい一日を過ごすことができ、ありがとうございました。

来年は、仕事虫の主人（9F卒）の首に縄を付けて参加したいと思っています。

来年度は、一期生の卒業より20年とのことを記念して、三陸校舎を訪ねる一泊二日程度のツアーを計画中とか。

卒業以来一度も三陸を訪ねていない方、卒業後足しげく通っている方どうぞふるってご参加くださいと事務局よりのお知らせです。くわしくは、本紙後方のお知らせをご覧ください。

が、駅伝、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ドッチボール等の種目には例年になく多くのエントリーがあり、我々実行委員の頭を悩ませ、二日目に行う予定の

ソフトボールの準決勝戦を一日目に行ってしまったというような失敗もありました。しかし、二日目になると二年生を中心とした実行委員の的確な判断により心配された競技の進行もスムーズに進み、多少の時間のズレはありましたが、無事閉会式を迎えることができました。

今回の体育祭を振り返って見て、選手の人たちが楽しく、また、真剣にプレーをしてくれたのが印象に残りました。プログラムの面から見ると、全てが順調にいったとはいえませんが、選手の人たち、実行委員の協力によって予定時間内に全ての企



画を終了することができました。改めて、三陸という小さなキャンパスに共存する学生の何よりも強固な団結力を強く感じました。このことは今回参加してくれた学生が、皆感じ

てくれたのではないかと思います。最後になりましたが、援助をいただいた三水会の皆様、参加された選手の皆様、実行委員の方々に深く感謝申し上げます。

「平成六年度三水会総会開催」

去る五月十五日（日）午前十一時より、白金校舎会議室において、平成六年度本会通常総会が開催され、本年度の事業計画、予算、代議員・理事の選任等について審議、決定されました。総会では、五年度事業報告、決算についての報告を受け、これを承認した後、会報の発行、親睦会の開催等を内容とする平成六年度事業計画、予算案について協議を行い、原案どおりこれを承認しました。また、これに続き代議員・理事の選任が行われました。総会において承認された昨年度の決算、本年度の事業計画・予算、新代議員・理事は次のとおりです。

《平成六年度事業計画》

一、会報の発行

同窓生の動向、学部の実況、各種の情報等を内容とした会報を二

回発行する。

二、「水産学部より」の配布

本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。

三、会員の現況の把握

全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努める。

四、同期会等の助成

同期会、講座別同窓会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

五、親睦会の開催

関東地区会員を主な対象とした親睦会を8月に千葉県富津市において開催する。

六、懇談会の開催

大学、水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。

七、校友会助成

クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

八、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。

九、漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

《新理事・代議員》

（任期・平成六年五月～平成九年五月）

《理事・監事》

会長 長屋信博（1A）、副会長 其阿弥喜嗣（1A）・長谷川一敏（3A）、理事 石井雄（1A）・島田和明（1F）・大野良樹（1A）・横堀昌道（2A）・田村治（2A）・斉藤勤（3F）・畠山俊之（4A）・町野至（4A）・高橋明義（5F）・川添一郎（6F）・佐藤伊豆男（6A）・斉藤有紀子（8A）・中村栄（9A）・小林博子（16A）、監事 伴圭司（1A）・佐々木英生（1F）

《代議員》

増殖学科 其阿弥喜嗣（1A）・石井雄（1A）・長屋信博（1A）・伴圭司（1A）・大野良樹（1A）・横堀昌道（2A）・田代茂年（2A）

平成 5 年度 収 支 決 算

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	3,110,000	2,949,767	1. 部会助成金	4,225,238	4,225,238
(1)会報発行費	1,050,000	1,031,200	2. 前年度繰越金	1,055,365	1,055,365
(2)学部だより配布費	160,000	164,285	3. 預金利息	100,000	75,088
(3)同期会等助成費	150,000	60,000	4. 雑収入	250,000	233,900
(4)セミナー開催費	400,000	478,263			
(5)親睦会費	650,000	577,281			
(6)大学・学生との懇談会費	250,000	199,958			
(7)学友会助成費	250,000	250,000			
(8)就職ガイダンス費	100,000	88,780			
(9)漁船海難遭見育英会寄付	100,000	100,000			
2. 運営・管理費	1,900,000	1,644,774			
(1)印刷・通信費	250,000	220,335			
(2)会議費	350,000	363,462			
(3)総会費	200,000	134,995			
(4)事務局費	950,000	784,016			
(5)慶弔費	50,000	65,000			
(6)外渉費	100,000	76,966			
3. 予備費	620,603	995,050			
(1)予備費支出金					
(2)次期繰越金		995,050			
合 計	5,630,603	5,589,591	合 計	5,630,603	5,589,591

《大学援助特別会計》

ロブスターに関する国際ワークショップ組織委員会協賛金 50,000円

高橋裕次(2A)・田村治(2A)・田中和良(2A)・小野十美雄(3A)・鈴木英之(3A)・関口敬二(3A)・長谷川一敏(3A)・池田強(4A)・畠山俊之(4A)・町野至(4A)・岐部英雄(5A)・奥村誠一(5A)・佐藤伊豆男(6A)・江成良治(7A)・斉藤有紀子(8A)・中村栄(9A)・垣内省吾(9A)・高坂一郎(10A)・平本愛朗(12A)・田中義員(14A)・楠本正毅(16A)・小林博子(16A)・食品

平成 6 年度 予 算 案

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 事業費	3,170,000	1. 部会助成金	3,930,000
(1)会報発行費	1,150,000	2. 前年度繰越金	995,050
(2)学部だより配布費	170,000	3. 預金利息	100,000
(3)同期会等助成費	150,000	4. 雑収入	400,000
(4)親睦会費	1,000,000		
(5)大学・学生懇談会費	250,000		
(6)学友会助成費	250,000		
(7)就職ガイダンス費	100,000		
(8)漁船海難遭見育英会寄付	100,000		
2. 運営費	1,810,000		
(1)印刷・通信費	200,000		
(2)会議費	400,000		
(3)総会費	200,000		
(4)事務局費	860,000		
(5)慶弔費	50,000		
(6)外渉費	100,000		
3. 予備費	445,050		
合 計	5,425,050	合 計	5,425,050

学科 石川義行(1F)・佐々木英生(1F)・島田和明(1F)・中村年彦(2F)・城真市(2F)・斉藤勤(3F)・佐藤敏行(3F)・堀内岳郎(4F)・水野幸司(5F)・小川治男(5F)・高橋明義(5F)・坂本雅哉(6F)・飯塚信之(6F)・太田浩司(6F)・川添一郎(6F)・清康一(7F)・児玉雄司(7F)・池田穂高(8F)・本橋清一郎(10A)・松井完二(10A)・逸見司(11F)

水産学部第1期生卒業20周年記念イベント

—三陸ツアーのご案内—



私たちの母校、北里大学水産学部は来年（1995年）第1期生の卒業から20周年を迎えます。その記念すべき年にあたり、三水会では母校所在地の三陸町で記念イベントを計画中です。例年、各地区で行なわれる親睦会のわくを超えて、全国から卒業生にお集まり頂き、楽しく有意義な2日間を目標にスタッフ一同“企画”を練っています。お一人でも御家族づれでも大歓迎です。この機会に卒業生全員の第2のふる里「三陸」で再会いたしましょう。企画概要は下記のとおりです。詳細は来年3月発行の本会報で再度ご連絡いたしますが、同封のアンケートにお答え下さいます様、お願い致します。

〈企画概要 案〉

日 程 ● 平成7年7月29日（土）～30（日） 1泊2日（予定）

会 場 ● 北里大学水産学部（岩手県三陸町）

《主な内容》

日 程	卒 業 生	ご 家 族 の 方
7/29（土）		
12：00	J R水沢江刺駅集合・出発 （昼食は各自用意）	
14：00	北里大学水産学部着 スケジュール等の説明 学部長・教授挨拶 講演会：大学の移り変りetc. （20年前と現在）	大学校内案内 魚等のビデオ （小学生対象）
17：00	懇親会（マリンホール） 立食パーティー	宿泊先にて夕食 ●イベント 肝試し大会等
20：00	宿泊先へ	
7/30（日）		
	朝食（各宿泊先）	朝食（各宿泊先）
9：00	北里大学水産学部着 各自自由行動	●各種イベント 海水浴・釣大会 首崎散策・etc.
14：00	北里大学水産学部校舎発	
16：00	J R水沢江刺駅着・解散	

募集人数● (a) 電 車 組 100名→水沢江刺駅よりバス2台チャーターします。

(b) 自家用車組 100名→29日（土）14：00までに大学へ集合して下さい。

問合わせ先●《三水会事務局》〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL・FAX 045-303-3135

アンケートを同封してありますので、ご記入の上11月25日頃までにご返送下さい。